

STAGE+を楽しむ(137)(HP 収載)

—スメタナの《わが祖国》—

1. 始めに

前報(136)に引き続き、STAGE+のスメタナの《わが祖国》の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、スメタナの《わが祖国》の演奏を選びました。

ルドルフィヌム (2021年)

収録日: 2020年11月17日

ロシアものはもちろん、ドイツ、フランスものと幅広いレパートリーを誇る指揮者であるセミヨン・ビシュコフ。本映像では、彼が首席指揮者・音楽監督を務めるチェコ・フィルハーモニー管弦楽団との共演で、スメタナの《わが祖国》に挑んでいます。ボヘミアの風景や歴史に伝説といったものが描き出されたこの楽曲を、これ以上ない組み合わせによる演奏でお楽しみいただくことができます。熱演によって紡ぎ出される色彩美をお楽しみください。

演奏:

チェコ・フィルハーモニー管弦楽団

指揮:

セミヨン・ビシュコフ

曲目:

ベドルジーハ・スメタナ 交響詩《わが祖国》



3. 試聴の経過

前回に引き続き、スピーカーアキュライザーの位置を変更し、スピーカーアキュライザーからのワイヤリングケーブルにケーブルチューナーを装着し、ルーター

→スイッチングハブ→PCの2本のLANケーブルにLANアキュライザーを使用しています。さらに、スイッチングハブに光城精工の仮想アース Crstal EpL を接続し、ルーターに自作の仮想アースを接続しています。

また、CDクリーナーの効果(9)で報告しましたようにPCのストリーミング再生において、PCの液晶画面とLAN iSilencer とルーター に対するCDクリーナーの処理を行っています。

本拠地ルドルフィヌムでのチェコ・フィルハーモニーのスメタナの《わが祖国》とくれば定番中の定番の演奏です。

わが祖国は、ボヘミアの風景の描写音楽で、牧歌的であったり、民族音楽だったりする表情が演奏で表現されます。チェコ・フィルらしい弦の美しさがとろとろで浮んできます。冒頭のハープの優しい響きから終章の重厚な響きまで、これぞチェコの音楽という印象です。



4. まとめ

LANアキュライザーとCrstal EpLやCDクリーナーの処理効果により、定番中の定番であるチェコ・フィルハーモニーのスメタナの《わが祖国》の真髓が味わえました。

以上